

会 議 録

(嬉野市審議会等の会議の公開に関する要綱第9条関係)

		所管課	福祉課
会議名 (審議会等名)	第2回 嬉野市障がい者計画策定審議会		
開催日時	平成29年5月24日(水) 13:30~14:50		
開催場所	嬉野市役所(嬉野庁舎) 1-1会議室		
傍聴の可否	○可 ・ 不可 ・ 一部不可	傍聴者数	0人
傍聴不可・一部不可 の場合はその理由			
出席者	委員	山下俊一委員、中山逸男委員、古川信子委員、 織田智海委員、矢川雄一郎委員、中野哲也委員、	
	事務局	福祉課長、福祉課副課長、福祉課係員	
	その他		
会議の議題	別紙のとおり		
配布資料	当事者アンケート・関係団体ヒアリング・課題把握調査について 第3次嬉野市障がい者福祉計画骨子案 第2回策定審議会資料		
審議等の内容	別紙のとおり		

審 議 等 の 内 容

(嬉野市審議会等の会議の公開に関する要綱第9条関係)

		所管課	福祉課
議 題	1 当事者アンケート・関係団体ヒアリング・課題把握調査について 2 障がい者福祉計画骨子案について		
内 容	別紙のとおり		
審議経過	<p>○協議内容</p> <p>会長あいさつの後、会長の議事進行で、事務局より、障がい者福祉計画骨子案ならびに各調査報告書を使用しながら、調査結果と計画骨子案について説明を行った。</p> <p>事務局から説明に対し、以下のような質疑応答が行われた。</p> <p>(会長)</p> <ul style="list-style-type: none"> 各調査の結果を踏まえながら、計画骨子案が検討されていることは評価できるのではないかと思う。また、差別的な響きを感じる「障害者」という表現を使わないで、「障がいのある人」と表現されていることは良いことだと思う。それと、この計画とは別に、障がい福祉計画があると理解しているが、そういうことでいいのか。 <p>(事務局)</p> <ul style="list-style-type: none"> ご理解のとおり。障がい福祉計画では、障がい福祉サービスなどの事業についての見込み量といった数値目標的なものを示していくことになる。 <p>(委員)</p> <ul style="list-style-type: none"> 不審者対策のことについて触れてもらいたい。警察などとの連携強化といった内容になると思うが、いわゆる防犯対策のことを計画のなかに盛り込んでももらいたい。 <p>(事務局)</p> <ul style="list-style-type: none"> 取り組んでいく施策の項目に、安心・安全対策の推進があつて、災害時の避難行動支援や消費者被害対策のことを記載されているが、この箇所に防犯対策のことについて盛り込みたい。 <p>(委員)</p> <ul style="list-style-type: none"> 「現状と課題」については、どのような取りまとめ方になるのか。 <p>(事務局)</p> <ul style="list-style-type: none"> お手元の計画骨子案では、「施策の柱」ごとの「現状と課題」につ 		

	<p>いて、各調査の結果を、それぞれの調査報告書と対比できるよう、調査ごとに列挙する形となっている。委員のご意見を反映させながらこれから作成していく計画素案では、それらの調査結果を再整理し、文章化しながら、わかりやすく記載していきたいと考えている。</p> <p>(委員)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現計画を作成するときには、関係団体ヒアリングや専門職への調査である課題把握調査は行ったのか。 <p>(事務局)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実施していない。今回、これらの調査を実施することで、いわゆる生の声を聞くことができたと考えている。 <p>(委員)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもの発達障がいということがクローズアップされていることから、この計画のなかでも発達障がいのことについてきちんと盛り込んでもらいたい。子どもたち全体の1割くらいが発達障がいを抱えているのではないかと思う。そんななか、障害者手帳を所持していない子どもが多く、親に勧めてもなかなか受け入れてもらえない現状がある。その背景には、親が子どもの障がいについて十分に受容できていない状況があるように思う。 <p>(事務局)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・委員ご指摘のとおり、発達障がいを抱える子どもや家族への支援について、きちんと計画のなかに盛り込んでいきたいと思う。このことについては、情報提供の面からも大切なのではないかと思う。 <p>(委員)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・歴史上の偉人と言われる人たちのなかには、発達障がいを抱えている人もいる。このような前向きなプラス面の話を啓発のための情報として、もっと発信してもらいたいと思う。 <p>(委員)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発達障がいを抱える子どもの親や家族の受容も大切になってくる。 <p>(会長)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「障害者」という言葉が良くない。 <p>(委員)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・障がいのことを受け入れることで、親や家族も楽になるところもあると思うのだけど。 <p>(委員)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・従来障がいのある人たちに対する政策については、隔離することを行ってきた歴史があって、そのような歴史的背景からの差別や偏見が問題となっているように思う。教育などの場でも、社会生活のなかでも、ともに生きるというあり方が大切だと思う。 <p>(委員)</p>
--	--

	<ul style="list-style-type: none"> ・地域社会とのかかわりでは、それが特別なことではなく、自然な形で行われることが大切だと思う。そのようななかで、障がいのある人たちは、社会的なルールを身につけていくことが大事になるし、また、それぞれ人間には役割があるのだという発想が大切だと思う。 (委員) ・妊娠中からのフォローや、乳幼児健診での専門的なフォローが大切になると思う。また、保健師と保育園との連携も大事だ。 (会長) ・親がいかにかが子の障がいのことを受容していくのが課題だと思う。 (委員) ・情報のバリアフリーということが盛り込まれているが、当事者の人たちからの発信という視点も大切だと思う。障がいを隠すということではなくて、障がいを抱えているなかでの特性や能力をいかに伸ばしていくのかといった観点からの支援が大事になってくると思う。 (委員) ・子どもたちの遊びの環境が発達に大きな影響を与えるということが指摘されていて、自然豊かな環境のなかで養育され成長していくことが発達のためにとっても大切になる。またこのような視点は、保育園の保育環境についても大いに取り入れていかないといけないことだともいえる。このようなことからすれば、スマホにお守りをさせるということはまったくもって良くないことだ。 (事務局) ・施策の体系がおおむねよろしいということであれば、今後それぞれの施策の具体的な内容について検討を進めていきたいと思う。検討結果については、次回の審議会でお示しする予定としているので、改めて協議をお願いしたい。 <p>最後に事務局より、今後のスケジュールと次回審議会についての説明があり、本審議会は終了した。</p>
--	---